

# 高浜地区振興会 広報

# はと 鳩の峯

NO.66  
2023  
3.1

令和5年3月1日



## 目 次

二十歳のつどい	2P
還暦を終えて	2P
連載その②	3P
健康教室開催	3P
高浜ブドウ会活動状況	3P
香典返し	4P
広報郵便寄付	4P
ふるさと納税	4P
はい!バチリ	4P
高浜ものがたりウォーク	4P
編集後記	4P

## 新年の風物詩「おね火」

於：天草中学校グラウンド

1月8日(日)に恒例のおね火「鬼火がなまつたもの」が行なわれました。持ちよった、門松、しめ縄などを燃やし無病息災を願っていました。

一説によると、竹を煙にかざし、その竹で体をたたくことで「悪い所をたたくと病気が早く治る」と言い伝えられています。また燃えさしが消えたら自宅に持ち帰り玄関や屋根に挿して「悪魔退散」を願うところもあるそうです。

## 二十歳のつどいを終えて

成人式を迎える、大人の仲間入りを果たすことができ、とても嬉しいと思います。久しぶりに再会した友は学生として、あるいは社会人

としてそれぞれの人生を歩んでいます。

この日を迎えたのも両親をはじめたくさんの方々のおかげです。感謝の気持ちを忘れず、素敵な大人になれるよう精進していきます。

山田 貴絵  
きえ

## 祝 二十歳のつどい



祝 令和5年 天草地区二十歳のつどい 令和5年1月3日(火)  
於：高浜地区コミュニティセンター

## 還暦を終えて



祝 昭和38年度同窓生  
令和5年 還暦厄除け祈願 令和5年1月2日(月)  
於：高浜八幡宮

コロナ禍の中、開催の是非を重ね令和5年1月2日、同級生の半数である27名が参加した還暦の祝い。

その日は私達を祝福するかのような晴天のもと、神事等の儀式が執り行われマスク美女・美男の顔からはその当時の面影をうかがうこととはできず、マスクを外してみて、あの当時と変わらない同級生の笑顔がありました。

兎年。うさぎのように元気に飛び跳ねるよう健康に留意し、次回元気に再会できる日を記念した同窓会でした。

S38年度生まれ 山田 義勝

## 連

## 載

その㉙

京都府立大学 文学部歴史学科 東 昇

### 南島原市の天草墓（三）

南島原市口之津の天草墓は、時期的にも文化期の流行と一致します。上田宜珍日記には、文化五年正月六日、元向の兵吉女房ますが疱瘡になつた際、兵吉・母は船で口之津へ行くとあります。また、文化六年一二月二六日浜の林五郎娘が疱瘡となり、船で他国養生に行きます。

翌正月一七日林五郎の除舟が高浜村へ戻りましたが、林五郎は口之津にいました。一九日には病人船が戻りましたが、病人は大矢野に預けた、とあります。林五郎は出発して四一日目の二月七日に高浜へ戻ります。

三月一〇日には家内も帰ってきますが、入村時にはお祓いをしています。このように口之津は、高浜村の疱瘡の他国養生先の一つでした。

これまで他国養生先での実態は不明でしたが、前回話したように死者は墓に葬られていたことがわかりました。そして、文化五年の他国養生の事例には、村から加勢錢が支給されているので、この資金をもとに疱瘡死者の墓が建立された可能性もあります。

## 健康教室開催

とき 令和4年11月24日(木)  
ところ 高浜「ミニユニティセンター」  
内科・泌尿器科・合志市開業医  
講師 池田 稔先生

高浜巡回診療所の池田稔先生に日常の水分摂取や脱水のめやす、排尿に関することなど、わかりやすくお話をいただきました。



## イルミネーション点灯

とき 令和4年11月26日(土)から  
ところ 白鶴浜管理棟付近

昨年よりたくさんの人々が訪れた幻想的な夜景に見入っていました。また、観光スポットとして年間行事に育ってくれることを願っています。



## 高浜ブドウ会活動状況

1月21日(土)剪定作業に宇城市内から5人の応援隊が来てくれました。今年から、ブドウ手入れ作業の応援隊を募集して体験、手伝いをお願いしたいと思っています。

高浜ワインに出せる  
ブドウ作りを目指します！



## 高浜地区

(令和5年1月31日現在)

人口 941人  
男 440人  
女 501人  
世帯数 555戸

高齢化率(65歳以上)  
561人(59.6%)



志賀様付近からの眺め



十三仏をくだり、白鶴浜を眺めながら



11月13日(日)に「高浜ものがたりウォーク」を実施しました。白鶴浜海水浴場駐車場前でゴールしました。ゴールでは、空くじなしの「お楽しみ抽選会」もありました。



令和四年度はコロナを心配しながらの行事で出来なかつたものと出来たもの、色々ありました。令和五年は国の政策で五月八日、新型コロナ感染症の位置づけが変わらるような流れになつて来ています。それを考えると来年度の行事も色々実行出来そうになつて来ましたので、令和五年度は忙しい一年になるのではと思つています。

早くコロナを気にすることなく、行事ができる日々が来てほしいと祈る毎日です。

## 編集後記

